

令和3度 第1回 沖縄県 SDGs 専門部会 Partnership (パートナーシップ) 部会
議事概要

日時：2021年12月22日(月) 14:00~15:30

場所：沖縄県庁 ほか (オンライン会議)

出席者：

(委員)

倉科委員、首里のすけ委員、新膳委員、長濱委員、平田委員、満尾委員

(オブザーバー)

恩納村、石垣市

(沖縄県)

島津 SDGs 推進室長、SDGs 推進室 平良主幹

(事務局)

会議をはじめさせていただきます。まず、委員のご紹介をさせていただければと思います。最初に、独立行政法人国際協力機構、JICA 沖縄センター所長の倉科和子委員です。一言よろしくお願いたします。

(倉科委員)

皆さんこんにちは JICA 沖縄センター所長の倉科です。JICA は開発途上国・地域の社会、経済の発展への協力を行っていますが、これは途上国での SDGs の推進ということになります。これに加え、沖縄県の地域振興、沖縄県の SDGs の推進に貢献する活動も行っております。どうぞよろしくお願いたします。

(事務局)

ありがとうございます。続きましてオリジンコーポレーション代表の首里のすけ委員、お願いたします。

(首里のすけ委員)

オリジンコーポレーションの首里のすけと申します。オリジンコーポレーションは沖縄県にあるお笑い部門、タレント部門、劇団部門、3部門ある芸能事務所です。僕自身もお笑いコンビ「しんとすけ」というコンビのツッコミ担当で芸人なんですけども、今年の1月から代表も務めることになりまして、芸人兼代表という形でこの会には参加させていただいています。SDGs 的に言うと芸能事務所が何で SDGs なの？という所だと思うんですが、皆さんみたいに直接的に関わりがあるというよりは、僕が SDGs の漫才とかコントとかを作っていたり、インタビューとかをするというオリジン SDGs 劇場というコンテンツを HUB 沖縄

というニュースネットメディアでやっていたり、今 RBC-i ラジオの朝の情報番組で「アップ！」という番組がありまして、そこで県の SDGs アドバイザリーボード委員の玉城直美さんと一緒にラジオをやっていたりするので、多分そういう経緯でお声がかかったと思います。なので、僕自身も勉強しながらになると思うんですけども、何か力になれることがあればと思って参加させていただいています。よろしくお願いいたします。

(事務局)

ありがとうございます。つづきまして、非営利活動法人 NPO 法人、沖縄 NGO センターの新膳朋子委員、一言お願いします。

(新膳委員)

みなさんこんにちは。新膳朋子と申します。宜野湾市にある NPO なんですけども県内各地を活動対象として、日々活動しているんですが、内容としては教育とか人材育成ですね。アクティブラーニングを取り入れた教育手法を土台に世界ウチナーネットワークだったり、在住外国人と住みよい街を作るという多文化共生についてやっています。今回はお声掛けいただいて違った分野の方々のお話が聞けるということで大変光栄に思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

(事務局)

ありがとうございます。つきましては浦添市立中央公民館館長、長濱京子委員、お願いいたします。

(長濱委員)

こんにちは。浦添市立中央公民館の長濱と申します。今年 4 月に公民館で社会教育とはなんぞやというあたりからやっと分かりかけてきたところです。私がこの会に参加するというのは地域とのつながりがあるかなと思っていまして、浦添市には中央公民館、それから自治公民館という地域にある公民館が 41 ありまして、それを一緒に地域のことを考えていくというあたり「ゆいまーる」のお話かなと思っています。よろしくお願いいたします。

(事務局)

ありがとうございます。続きまして沖縄文化芸術振興アドバイザー 平田大一委員、よろしくお願いいたします。

(平田委員)

ハイサイ、皆さんこんにちは。平田太一と言います。僕自身は舞台を作る演出家という形でこれまでも取り組みしてきましたが、SDGs というこの理念とか観念というのがある前から、

ノー補助金のイベントやりたいね、助成金とか補助金に頼らない形での取り組みをしたいということが元々の僕の地域おこしの原点でもありまして「現代版 肝高の阿麻和利」という作品は21年続いていますし、もっと言えば地域の伝統芸能とか民俗芸能というのが600年とか500年とか続いている芸能もありますから、ある意味世の中、本来元々この島の人たちが持っている考え方とか生き方の中に、SDGsの本来のあるべき姿というのがあるんじゃないかと前々からずっと思っていました。今回自分の立場でこの会議に参加させていただきましたので、本当にこの継続できる取り組み、持続可能な取り組みといったことを、これからも皆さん共有しながら意見交換できたら幸いです。よろしくお願いいたします。

(事務局)

ありがとうございます。続きまして、一般社団法人大学コンソーシアム沖縄事務局長、琉球大学総合企画部戦略部長 満尾俊一委員、一言お願いいたします。

(満尾委員)

大学コンソーシアム沖縄の事務局長をしております、満尾俊一と言います。本職は琉球大学の職員でございます。大学という位置付けから大変幅広くSDGsと関連しておりますし、教育は切っても切れない関係にあることから、この会議に参加していると考えております。大変微力ではございますがお役に立てればと思っております。よろしくお願いいたします。

(事務局)

ありがとうございます。このパートナー部会につきましてはオブザーバーとして今後石垣市さんと恩納村さんにもご参加いただくこととしております。もしよければ恩納村からまず一言いかがでしょうか。

(オブザーバー恩納村)

本日はよろしくお願いいたします。恩納村もSDGsに本格的に取り組む前身の取り組みとして2018年にサンゴの村宣言、世界一サンゴに優しい村を宣言して、恵まれた環境があるので、続く発展に、次世代にも残していこうという取り組みからもっと環境自然環境だけではなくて経済とか社会とかにもどんどん波及して、みんなの暮らしも良くしていこうと最終的にそういった取り組みをやっていく上ではSDGsのつながりを意識した取り組みが生きていくんじゃないかと思って恩納村はSDGs取り組んでいます。そのおかげで2019年にSDGs未来都市に選定されたんですけど、今後もっと現在環境とか経済の面は結構動いている面はあるんですけど、村民の生活が劇的に変わったというのはちょっと難しいと思うんですけど、村民の生活に今度は還元できるような取り組みにつなげていきたいと思っておりますので、色々な所にアンテナ張って、これからも頑張っていきたいと思っております。オブザーバーとしての参加ですけどもどうぞよろしくお願いいたします。

(事務局)

ありがとうございます。石垣市は遅れて参加となりますので、後ほどコメントをいただきたいと思います。それでは議事に移らせていただきたいと思います。SDGs 推進室室長 島津の方で進行させていただきます。よろしくお願いします。

(進行)

本日は年末のご多用の中のパートナー専門部会お集まりいただきましてありがとうございます。沖縄県では令和3年9月に実施指針を策定しまして、県民と共にどういったアクションを進めていくかの意見をいただくという観点でお声かけさせていただきました。アクションプランのたたき台について皆様から広くご意見を頂戴したいと思っております。はじめに事務局より資料説明をしまして、その後委員の皆様からご意見いただきたいと思えます。それでは事務局よろしくお願いします。

(事務局)

資料1を中心に、議論の時間も確保したいので、ポイントを絞って説明させていただきます。資料1の1ページ目アクションプランのイメージ図の内、プラットフォームと記載のある図から説明させていただきます。沖縄県の方で推進本部、今回の専門部会、全体的な議論をするアドバイザーボード会議を含めた県庁の仕組みをまとめています。今後、県民と。市町村、教育機関、大学も含め、いろんな方々が参画し、連携してSDGsに取り組んでいくプラットフォームを来年度作ろうと企画しております。企業や団体の方から地域課題は何か、SDGsは何をすればいいのかという相談があります。皆でこういうふうにこういったことに取り組んでいきたいと思いますというベクトルを示して、プラットフォームにおいて行動を重ね合わせていくような仕組みを作れないかということで検討しているものです。

基本理念、この右にSDGs実施指針という記載がございます。今年の9月にパブリックコメント等もさせていただきながら策定したところです。将来像は沖縄21世紀ビジョンの将来像、さらに12の優先課題があります。優先課題に対して、具体的にどういったことをやっていくかというかを、アクションプランとしてまとめていこうというアプローチですので、専門部会でご意見等いただきながら検討を進めていきたいと考えています。優先課題の下にある沖縄らしいSDGsの実現は2030年の沖縄をこういう姿にしたいといった目標を設定するものです。加えてゴール、ターゲット、ローカル指標を設定し、これらを実現するためのアクションも整理する予定です。

2ページでは、アクションプランの作るにあたってのプロセスと。今どこまで来ているのかを示しております。検討にあたってインプット情報の収集としては、9月から12月まで県民アンケートをさせていただきました。全体で1,686件の回答がありました。若い方々も活発に回答いただいたことや離島の方から2割弱の回答があるなどの特徴があります。他

にも沖縄21世紀ビジョン、9月に実施指針を策定した際のパブリックコメントの意見や新たな振興計画の要素などを踏まえて、たたき台をまとめさせていただきました。それにあたってSDGsのゴール、ターゲット、ローカル指標は入れておりませんが、素案を取りまとめる際に設定させていただこうと思っています。

先週16日にアドバイザリーボード会議を開催させていただき、現在、SDGs専門部会、でご意見をいただいています。年明け1月には関係団体、市町村に意見照会した上で、素案について検討していくことを予定しております。

骨子のたたき台ですけれども、3ページに骨子冒頭の基本理念、将来像、優先課題の内容を記載させていただいております。この部会に対応する優先課題は⑩、⑪、⑫の三つが主な割り当てになりますが、各全体を通してご意見をいただきたいと考えています。特にパートナーシップは、全体に関連しますので、前広にご意見いただければと思っています。それぞれの優先課題のアクションを説明すると時間が無くなってしまいますので、ポイントだけご説明させていただければと思います。

優先課題の⑩はゆいまーる継承、人の輪、地域の輪という課題設定がされています。SDGsとしてローカルパートナーシップと伝統文化の継承というアプローチがございます。次のページですが、アクションを検討するにあたって、定量的な県民アンケートと定性的なキーワード、あとは沖縄振興計画の検討のキーワードを拾い上げて、目標設定とアクションの設定というところをたたき台としてまとめさせていただいております。次のページにはアクションの検討のベースとなっている県民アンケートもしくは計画のキーワードを抜粋し、まとめた資料をつけております。同じような形で優先課題⑪、地域、世代、分野、文化を超えた多様な交流と連携の創出、優先課題⑫、世界の地域、島嶼地域における技術、経験の共有と国際貢献グローバルパートナーシップ。この三つをパートナーシップ部会の関連の優先課題として設定させていただきました。

もう一つ、資料4の方もちょっと添付をさせていただきました。優先課題とゴール、ターゲット、SDGsのゴール、ターゲットを整理したものになります。これは実施指針を9月に策定しましたが、その前段階のSDGsの万国津梁会議、もしくはアドバイザリーボード会議の中で議論をして、こういったゴール、ターゲットの割り当てというのをさせていただいています。アドバイザリーボード会議の中で、たたき台の議論もさせていただきましたけど、SDGsは国連が定めたゴール、ターゲットがあるので、グローバルスタンダードの目標や方向性を視野に入れて検討すべきだという意見がありました。事務局が素案をまとめる中で、グローバルスタンダードの視点も持ちながら整理したいと思っていますが、こういった観点も必要だということも共有させていただいて、一緒に議論できればなと思っています。その他、アクションが箇条書きであるが、いろんなことを統合的に解決していく、経済、社会、環境の三側面の観点も持ちながら整理する必要があるとの意見もありました。是非、統合的な取組を含めて前広に意見をいただきたいと思っています。最後に、声の届きにくい方々からの意見をどうやって収集していくかが重要だという指摘がありま

した。これは会議の中でも結論も出にくいところがあって、模索していくべきだという話でございました。例えば、NPOの方とか社会ボランティア団体の方など、日頃から困っている方々に接している方を通じてご意見いただくという手法もあると考えておりますが、新たなアプローチ、手法も含め意見をいただけるとありがたいです。資料の説明は以上です。

(進行)

それでは事務局から説明のありました事項についてご意見を頂戴したいと思います。最初是我の方から指名させていただきたいと思ひます。それでは JICA 沖縄事務所長 倉科委員どうぞよろしくお願ひします。国際貢献ということで JICA さんの役割非常に大きいと思ひています。よろしくお願ひします。

(倉科委員)

私たちの部会では⑩、⑪、⑫について話し合うと思ひていたので、その部分を中心にお話をさせていただきたいと思ひます。1点は、ちょっと視点が欠けているのではないかなと思ひたところがありまして、将来像の4の世界に開かれた交流と共生の島というところに関係があるところだろふと思ひます。ここで言う共生ってどこを指しているのかなと言った時に、欠けていると思ひるのは外国籍住民の方とかというところの視点が欠けているのではないかなと思ひます。今ここにあるのは日本とそれ以外の地域、世界のウチナーンチュだったり国際交流も外の関係のところを中心に書かれていますけど、多文化共生と言った時に、やっぱりそれって地域の多文化共生というところも重要で、沖縄らしいそういう共生の島になるためには国籍とか民族が違ふ人たちが、互いに違いを認め合つて、共に暮らす社会が実現するとかというのが必要で、沖縄はそんなには他の地域に比べて多くないかもしれないですけども、外国籍住民どんどん増えていくと思ひますし、そういう方々との共生という視点がこの地域の共生のところでも必要なじゃないかな、欠けているのではないかなと思ひたのが1点です。

二つ目は⑫番の協力とパートナーシップのところですが、新たな振興計画とほとんど一緒で、その辺の関係性をどうするのかなというのが疑問であり、難しいところかなと思ひたところだ。この⑫番の NO1 の実現に向けたアクションプランのところとかも、書きぶりが公共インフラ関連などの様々な分野や技術となっていますけど、沖縄の経験とか技術って保険医療、観光、教育、平和教育みたいな所もそうで、公共インフラに限定しない方が好いと思ひます。わざわざハワイだけで突出しされているのはなぜなのかなとか、交流というより、ここは技術の交流だったりするのかなというところが、気になった点です。

声が届きにくい人の声をどうやって拾っていくかの話の中で、やはりマイノリティーと言われる人たち、女性とかもそうなのですけど、アンケートを見るとこれって年代はあったけど男女ってあったか、ザッと見た感じで分からなかったです。女性もちゃんと声をあげることができているのかなというところ、障害を持った方々とかいうところも含めて、通常マ

イノリティーと言われているような方々の意見をちゃんと聞けるようにするというのは重要なというふうに思いました。

(進行)

貴重なご意見ありがとうございました。事務局からコメントお願いしたいと思います。

(事務局)

多文化共生の件ですが、場所が少し変わりますけども、ページにすると4ページ、アクションの4番のところで多文化共生社会をまとめています。パートナーのところで受け込ますかというのは検討させていただければと思っています。先日、平和部会を開催させていただいて、平和の構築ということについては教育という観点が重要で、若い方々に様々な国の文化の違いや歴史に触れて学んで理解を深めていく中で、平和な社会が作られるといった意見もありました。そういう意味では優先課題⑪のところも重要だという議論をさせていただいたところです。どういうふうに表現するかは検討させていただければと思っています。

もう一つは⑫番の技術の点です。これはおっしゃる通りで、たたき台として作っていただきながら充実させていこうというところです。インフラに限らずという視点、色々な国と交流していくというそういう視点で整理したいと思います。

アンケートの属性の話もございましたけど、今回は、SDGs という観点で色々議論はあったのですが、男女の特性は属性選択から外していますので、男女比率による分析はできていません。結果としてそうなっているということなので申し訳ございません。

(進行)

事務局ありがとうございました。続いて浦添中央公民館館長の長濱委員、ご意見いただければと思います。よろしくお願いします。

(長濱委員)

私の方は先程話したゆいまーるのところなのですが、資料の23ページ。このアンケートによると26.5パーセントの人が答えていて、このアンケートというのは大切だと思っている、残していきたいと思っている数字なのではないでしょうか。

そうすると4分の1の方だけがそう思っているということは、残りが繋がらなくてもいいと思ってるという回答になるとしたら極端かなと思ったので、このアクションプランのところをもっと何か具体的に動かないといけないのかなと思っています。私がやっているのが社会教育とか学校教育とか、そういうのとのつながりもあるかなと思ってるんですね。若い人、若い頃からその地域とつながるというあたりももう少し具体的にやらないと、今から公民館にもお年寄りはいらっしゃるMPですけど、若い人を取り込もうという取り組みもあるので、この地域とかのゆいまーるを残していきたいなら、学校教育、社会教育という

のは若い世代からつながるような、何かアクションに少しつながるような内容にしていった方がより具体的かなとちょっと思いました。

あと一つですね。気になったのは26ページのアンケートのところですけど、ウチナーンチュ大会っておこなわれているのですが、ネットワークのところは国内外に存在する世界のウチナーンチュネットワークというのは1桁ですね。7.4パーセント。ここが気になって。大会もおこなっています。繋がろうとしているのはひょっとしたらごく一部の人の人なのか？でも伝統とかそういうのは残そうとしている。これが58.1パーセントあるので、何かどういう関係でこんな極端なのかなと。世界と繋がろうとしているところみたいなところが、どこで育めばいいのだろう、もう少し何か方法がないかなと思っています。このアンケートの数字から私の疑問にいろいろ思ったので、いろんな方のご意見聞けたらなと思っています。

(進行)

ありがとうございます。事務局からコメントをお願いします。

(事務局)

アンケートの方の資料を共有させていただきながらご説明させていただきます。丁寧にご説明したいところですが、ボリュームが多くて時間が経っているので資料共有という形でご説明させていただきました。アンケートの中で、例えば将来に残したい沖縄らしさというのは何かということで、この中で3つ選んでくださいということをしていただきました。3つ選ぶ中でウチナーンチュネットワークを選んだ方がそれぐらいの割合ではあったという結果でして、他の項目との優先度を表していて、ウチナーンチュネットワークに関心がないという結果ではないです。例えばこの自然環境を残したいという方非常に多いですが、3つを絞り込んで選ぶ中で、ウチナーンチュネットワークが125選択されたということでもあります。全体の選択の優先度が割合として出てきているので、ウチナーンチュネットワークの形成とか、伝統文化を残したいとか、相互扶助、人の輪が重要だという人たちが少ないということではないとご理解いただければと思います。ただ、長濱委員がおっしゃったとおり、若い方々をどうやって地域コミュニティに引き込んでいくかというのは非常に大きな課題になっておりまして、例えば自治体の参加率とかその延長線上にありますけども地域防災組織の構築とかですね。あとは防犯対策も含めて割と若い人たちの関わりが少ない、特に都市部に関しては少ないという経緯があります。やはり防災も含めていろんな地域課題は根っこにはこういった自治会とか地域コミュニティが重要になりますので、おっしゃっていたご意見はその通りで、どうやって学校教育、社会教育、若い人たちから高齢者の方々まで地域でつないでいくかというのは非常に重要な視点かと思っています。この辺も視野に入れながら検討させていただきたいと思っています。

(進行)

事務局ありがとうございました。続きまして大学の現場で教育に関わっていらっしゃる、大学コンソーシアム 満尾委員、ご意見をお願いいたします。

(満尾委員)

まず目を通して沖縄らしいという言葉が随所に出てくるのですが、目指すところの沖縄らしいというのは何だろうなというのを教えていただければと思います。それぞれの認識を統一させるにはある概念について統一した考えが必要かと思うところがありますので、目指している沖縄らしいというものが分かれば、アピールの度合いが高まるし、認識の度合いも高まるのではないかと考えたりします。

先ほど、アンケートにおける属性に関する話題がありましたが、若手の声を聞くということは大事なことであると思っていて、やはりいろんな所で若手の意見を取り入れながら議論の合意形成をしていくことは大事であると思っています。各テーマの合意形成過程において、取り入れられる状況があると良いかと思っています。

あとは、国でも世界でも、色々なところでこのSDGsに関しまして色々なゴールを定めて色々に取り組まれています。日本国が目指すところのSDGsについては国で推進本部を設けてアクションプランを公表したりしています。そういったものとある程度は一致させながら、またそれらを横目に睨みながらいろいろと活動、行動することが必要ではないかと思っています。プランが多岐に渡る中に「これは沖縄らしいところ」「ここは沖縄ならではのものです」というところがあれば、それはそれでまた素晴らしいことだと思いますし、そういう見地もあればよいと思います。

(進行)

ありがとうございました。「沖縄らしいSDGs」とは何だろうということで過去、令和元年度から万国津梁会議、有識者会議の中でもご議論いただいたところでございます。その点について事務局から補足をさせていただきたいと思っています。

(事務局)

沖縄らしいSDGsについては、時間をかけて議論しました。いろいろな視点があり、一つのキーワードで「これだ」ということにならなかったのが結論です。沖縄県SDGs実施指針で沖縄らしいSDGsの基本理念を定めています。特徴としてはやはり平和というのは非常に大きなキーワードになっています。熾烈な沖縄戦の経験もありますし、いろんな歴史的な流れも見て、平和というのは非常に重要なキーワードとさせていただいています。世界と交流というのはやはり移民の方々も含めて世界のウチナンチュとの連携もありますし、ハワイ、台湾との交流というのも歴史的にあります。当然中国を始め、世界と交流してきたという背景も含めたところ。ゆいまーるの精神も含めて取り残さない、社会課題もたくさんありますのでしっかり地域のコミュニティ、歴史的に受け継がれたゆいまーるの精神を受け継ぎ

ながら対応していこうと。持続可能については産業振興も含めてこういった観点で経済を回していこうというところ、美ら島というのは自然環境の保全といったコンセプトを入れております。トータルで沖縄らしい SDGs ということに決着したという経緯がありますが、パンフレットなどの中で分かりやすく説明できるようにしたいと考えているところです。

もう一つは若手の話がありました。実際のプレイヤーとして若い方々を中心にアクション起こしていくというのは、非常に重要と考えています。一般的に、若い人の意見を補助的に扱う傾向がありますが、実現させてみようと、チャレンジしてもらおうと、そういう環境というか意識の繋がりというかそういうことが大事じゃないかという意見もありました。冒頭ちょっと説明させていただいたプラットフォームの話もあります。県民、企業、団体いろんな所でアプローチをするプラットフォームを作ろうという話ですけども、そういった中でも若者が企画をしてどんどん物事を進めていくような枠組みも作ったらいんじゃないかといったご意見もありました。まさにそうだなとは思っているところで、そういった実際のアクションというかアプローチのところ、そういった若者をプレイヤーとしてしっかり置いていく必要があるのかなと思っています。例えば参考事例ですが、石垣市さんの方で SDGs のイベントがあったのですけども、石垣市の青年会議所の企業の方々が中心になって立案したのですけど、その実行委員会の会長が確か八重山高校の学生さんだったと新聞でも拝見しました。イベントが一つの例ではありますけど、若い方々のアクションを積極的に認めて応援していくところも大事かなと思っています。

日本政府とか色々な所の動きというのも当然を横目に見ながら、国とも一緒に取り組んでいくというところは大事だと思っていますので、捉えながら検討したいと思います。

(満尾委員)

もう1点よろしいでしょうか。アンケートについてです。国外には沖縄県ゆかりの方々がいらっしゃる、例えば中南米には県人会があると承知しておりますが、国外にお住いで、ルーツが沖縄にあるような方々におかれましては、非常に沖縄との結びつきを強くお持ちで、外から沖縄を様々に見られていると思います。そのような方々の声というのはアンケートに含まれているのでしょうか。

(進行)

世界のウチナーンチュ大会、来年度開催ということで、開催にあたって文化観光スポーツ部の方で国外にいらっしゃるウチナー県人に対するアンケートというのは実施されてるというのは聞いています。世界のウチナーンチュを結ぶ、JICA さんの方にもコンシェルジュ機能というところで置かせてもらってるという聞いておりますので、そことのつながり今後すごく重要になってくるかなというふうに考えております。事務局から補足お願いします。

(事務局)

我々のアンケートでは、県外の方、もしくは海外も含めて回答は OK ですということにしておりますし、属性も県外にいらっしゃる方という分析ができます。ただ、アンケートの周知がそこまで届いていないというところがありまして、実態として反映はされていないと思います。今後こういったアンケートをまた取る機会があるかと思しますので、その際は委員の意見を含めて検討したいと思えます。

(進行)

次に NGO センターの新膳委員、コメントお願いいたします。

(新膳委員)

私の方からは3点なのですが、一つ目がまずこの①-4ですかね。先ほど多文化共生についてここに書いてありますよと紹介があった部分なのですが、アクションプランの方を見ていると、特に前半部分ですかね、県民の努力というか、県民がもっと色々な文化を知っていこうよという感じの書き方がされていて、それはすごくいいなと思っています。私たちは子供向けのワークショップ、学生向けのワークショップの中で日系人の方に来ていただいて、この日系人の方は幼少期とか子供時代を海外で過ごされて沖縄に来て、その時に日本語もあんまり喋れない状態に来て。でもそれでもどんなふう克服していったかみたいところで、自分のアイデンティティがどうなのかというところを子供達にお話ししてもらったりするようなワークショップをしています。彼女たち彼らが言うのはお互いの歩み寄りがすごく必要だよねということをやられているので、やはり外国の人たちのすごく努力されていると思うのですが、こういう県民の方々の受け入れる気持ちみたいなものをどんどん広げていくような、そういうアクションプラン良いなと思ったのが一つ。その後多言語化ということが書かれているのですが、これはものすごく、昨年度多文化共生事業の方でのアンケートのも出ていて、特に行政の窓口の多言語化というのは毎回毎回要望があるのですが、多言語化ってすごく時間かかるし難しいと思うのです。一つはこの中に「やさしい日本語」という動きがあるので、難しい日本語、書き言葉みたいな日本語ではなくて、ゆっくり喋る、最後まできちんと喋るとかいくつかポイントがあるのですが、こういうの入れてもらえると、おそらくそれを使うときの気持ちというのが、その活動の一番のものだと思うので、そういうのも入れていただければいいのかなと思いました。

そして私気になったのが⑨-3ですかね。NPOについて書いていただいているので、こちらもちよっとお話しさせてもらいたいのなのですが、この NPO と企業が他の団体さんというかコラボということで連携を書かれていて、実際 SDGs パートナーが始まってから、そういった取り組みの中で私たち企業さんとそれまでにない繋がりを持たせてもらったりして、その中で本当に良い活動が広がり始めています。これは是非進んでいくといいなと思うのですが、最後の方に、NPO の支援とか協力をもっとしていく方が良いと書かれていますが、具体的になんだろうなというのを思っていて、私の目から見ると、今県内にある NPO 団体だ

ったり、教育団体が多いのですが、あと任意団体ですよ。非常にボランティアな部分がすごく大きかったり、もちろんいろんな補助金を受けて活動していたりしても、そういう実物的なところが弱かったりして、そこに振り回されながら一生懸命でもいっぱいやること、課題が目の前にあってというようなそういうところでバタバタしている感はある。何かそういう支援とか協力となった時に、団体さんが何を求めているのかみたいなものも、もう一度踏み込んでヒアリングをしてもらえるといいのかなというのを考えました。特に具体的に日本語サークルとかすごく良い例で、私が知っている限りほぼボランティアです。これをきちんとうまく回している団体はないですし、行政主催の日本語サークルって1~2箇所ぐらい。私が知ってる限りではですね。なので、是非そういうところのフォローアップがあるといいなと思ったりしました。

三つ目、先程お話振っていただきました、世界のウチナーンチュについてなんですけど、国際交流という所で書かれているのですが、世界のウチナーネットワークという所っていうのはすごく普遍的な学びがたくさんあるつながりだなということ、日々感じながら活動しています。なので、もちろん交流というところから全て始まるのですが、何かもっとももっと色々な教育とか地域活動と掛け合わせていくと、もっともって市民の子供達や市民にとって、世界が自分のことになるという、めちゃくちゃすごく良いつながり、機会だなと思っています。来年世界のウチナーンチュ大会、来年以降もなんですけど、日系のルーツの方がいらっしゃった時に、毎回「おかえりなさい。」ということで、自分のルーツを探す旅でもあると思うのですよね。その時に今県立図書館の方で探せますよって端末あると思うのですが、そこからバスに乗って行くのも、やっぱり大変ですよ。外国人の方が本当にそういう集落の中に入って、日本語がままならない中、自分のお家を探すのってすごく大変だと思うのですよ。市民レベルでフォローしていくので大変ですし、行政の方も大変だと思うのですが、一緒に何かできたらすごくいいのではないかなというふうに思いました。

(進行)

貴重な様々なご意見ありがとうございました。事務局からコメントをお願いします。

(事務局)

多文化共生の件で、やさしい日本語は非常に大事ななと思っています。やさしい日本語というキーワードが非常に分かりやすい話ですので、こういうことも視野に入れて少し考えたいと思います。特に相手を知ることとか、外国の方々を受け入れる気持ちとか、地域の方々のまさにこういったテーマも含めてSDGsは県民の皆様の共感をどれだけ広げて価値を良い方向に持っていくかということだと思いますので、そういった多文化共生社会、外国の方々への配慮、障害者の方々も色々あるとは思いますが、囲気を作っていければと思っています。

もう一つはNPOの支援の話がありました。これについては人材とお金、この2点を意識し

ています。来年度以降、コーディネート機能というかサポート機能も作って、ソーシャルファンディング、クラウドファンディングの支援とかも含めて、資金調達、もしくは人的なノウハウも含めて支援ということができないかなということもイメージして、整理させていただきました。

世界のウチナーンチュネットワークのルーツの話、アイデンティティとルーツを探す旅の話が非常に良い話であるので、ちょっとプレイヤーの担当課とも意見交換をしたいと思います。

(新膳委員)

世界のウチナーンチュについて、交流ももちろんベースなんですけども、そこから学びがあるなと思います。

(事務局)

おっしゃる通りで、上手く工夫していかないといけないなと思っています。県の大々的な世界ウチナーンチュ大会がありますが、郷友会の人達と市町村のつながりというのは非常に活発にあって、これに関連して色々行き来をしたり若い人たちを交流させたりという取り組みはあつたりします。こういうアプローチは大事だと思いますので、今後ちょっと中でも少し意見交換しながら整理したいと思います。

(進行)

首里のすけさん、RBC ラジオでの活躍もあります。どうぞご意見お願いいたします。

(首里のすけ委員)

優先課題⑪-3番の実現に向けたアクションの中から、しまくとぅば、琉球舞踊、琉球料理、泡盛の伝統工芸などの伝統文化や歴史・伝統行事等を若い世代が学び、継承する機会を確保するとともに、地域や世代を超えて魅力を発信するということに関してなのですが、まさに今琉球舞踊ですけど、ある先生が小学校1年生に向けて聞いたところ、クラスの誰1人琉球舞踊の存在すら知らなかったという人がいて。琉球舞踊がなくなるんじゃないかという危機感を覚えて、ちょっとでも発信したいということで今オリジンの劇団員というか芸人が「かぎやで風」とか習って、それを習いながらSNSで発信したりということをやっているんですけど、それほど琉球舞踊に関して言うと沖縄での継承者がいないというのは深刻なのかなと思っています。一方でしまくとぅばで言うと「じゅん選手」というしまくとぅばを売りにしている芸人がいて、しまくとぅばを使ったお笑いをやっています。36歳ぐらいなんですけども奇跡的に才能があつてしまくとぅばペラペラという芸人がいて、そのじゅん選手がYouTubeでしまくとぅば講座みたいな生配信とか定期的に行っている時期があつて、その時に視聴者の半分ぐらい、半分以上ぐらいが県外の方でした。実感としてあるのは沖縄

好きになる県外の方って別にウチナンチュじゃなくて、世界のウチナンチュでも日本のウチナンチュでもなくてシンプルな県外の沖縄ファンってめちゃくちゃ多いなと思っています。継承するというのが何も沖縄にいる沖縄人だけではなくて、全国都道府県各地、例えば沖縄ファンクラブみたいなものを作って発信する、何かそういうものがあっても面白いのかなというのは思いました。

あと4番ですね。優先課題⑪-4番の文化芸術、音楽、サブカルチャーとの多様な文化を通じ、地域の活性化や多様な交流を促進するという、多分お笑いはサブカルチャー等に含まれると思います。沖縄県には芸人が溢れているので、この溢れている芸人をこのアピールだったり交流促進というところに使わない手はないなと思っていて、是非、音楽、お笑いという言葉をつけ加えていただくと注目される機会が増えるのかなと思います。沖縄県の新たな文化の一つとしてそれはいかがですかという提案です。

(進行)

首里のすけ委員ありがとうございます。平田委員、是非文化、芸能、しまくとうばも含めて平田先生からもコメントをいただければと思います。平田委員お願いいたします。

(平田委員)

よろしくお願いします。今お話ししたことと本当に関連しているんですけど、資料2の5ページになりますか。優先課題③、地域の誇り(しまくとうばの普及、推進等)と夢・目標をもてる学びの確保、教育充実という資料の中の沖縄らしいSDGsの実現というのがあって、その中のNO1が生まれ育った地域の歴史や文化等を学び、地域への愛着誇りを持った若者が活躍する社会が実現していると。実現に向けたアクションというのが、学校、地域、家庭でしまくとうばを使うとともに、子ども達が地域の歴史や文化等を学ぶ機会をつくる。二つ目に地域の祭礼、伝統行事に関わる機会をつくる。今の首里のすけさんの話とリンクするんですけど、弱いですよね。いわゆるアクションが。このしまくとうばであったり、地域の行事であったりということに関しては、当たり前前を当たり前前アクション。ここをさらにどういうふうに具体的な取り組みにしていくのかなというところはもちろん課題だと思うんですけど、先程あったみたいに多分お笑いからあれだけ人気あるかということ、お笑いの芸人になると例えば自分がなりたい自分になれるとか、素敵などなたかと出会いがあってタレントと結婚できる機会が例えばあるかもしれないとか、あるいは人気者になるようなことがある。みたいなことのモデルがいるわけですよ。ヒーローがいるというか。つまり、古臭いものをいかにカッコよく見せるかというところが、この伝統的なものを現代的にする意味があって、現代版組踊というのを作った時もそうだったんですが、伝統の入り口まで導くということが大きなミッションだということを考えていました。学ぶ機会を作ることだけではなくて、そこに触れてその機会をどう作るかというところまで踏み込んで、今後行かなければいけないなということを強く思ったのが1点です。

3点話しますけども2点目ですが、このページ下 No3 が充実した人生 100 年時代、再チャレンジを支える学びの環境が充実しているというところですね。そして、同じ形でさかのぼって4ページになるんですけども、今度は4ページ優先課題②ですね。医療福祉の充実、健康長寿と生きがい、子どもを貧困から守る子育てしやすい暮らしの中の No3。高齢者が安心して元気に暮らせる地域が形成されているという部分。この二つはリンクさせて所見を述べたいと思いますが、僕が手がけている取り組みの中に小浜島のばあちゃん合唱団という KBD84 という取り組みがあって、30 年近い前に手がけた合唱団です。今世代交代、平均年齢 84 歳でかなりなもんですけど、世代交代を繰り返しながら今も続いています。うちの母親が2年ぐらい前に80歳になってやっとその合唱団に入れたというそういうふうな取り組みです。同じような形で嘉手納のヒップホップのシニアグループのおじいちゃん、おばあちゃん達のヒップホップグループがあります。やはり高齢者のも含めてですけども生きがいを作るといって、それから次世代が元気なところは高齢者ももちろん元気であるということですね。高齢者が元気な島は次世代も元気であるということがある意味証明されているところもあるということ等も踏まえて、この4ページの高齢者が安心して元気に暮らせる地域が形成されているというところ。ここは介護サービスや認知サポーターによる支援などを充実する。それから高齢者が安心して働ける環境や多様な交流活躍の場を形成する。まさしくその通りだと思いますし、もう一歩突っ込んで今沖縄県の振興審議会などの離島過疎地域振興部会の時にも発言させてもらったんですが、離島の高齢者の率というのが今だんだん減っているんですね。離島はどんどん元気になりつつあるんです。理由はあって。福祉施設が充実してくると、島の高齢者は、1人暮らしの高齢者はもう大きなメインアイランド、石垣島と宮古島とかに引っ越すんです。高齢者はどんどんいなくなるということで、決して本当は若返っているということではないんですね。数字だけ見ればそうなのですが、実情そうだと。つまりどういうことかということと本当は島から離れたくないんです。うちの母もそうですから。それを考えてみると、島の中に離島のグループ、おじいちゃん、おばあちゃんが集まれるグループホームのような場所を作るといっても、もしかしたら行政でできることなんじゃないかと。これは実際にブラジルのサンパウロで県人会がやっています。県人会の中に1人暮らしの高齢者が増えてきたということで、アパートを県人会が買い取って、その中に1人暮らしの方が住んでいる。それを定期的にみんなで見ているということができている。ですから、そういう面では外国の県人会の方々がある面と言うならば SDGs 的なことをリアルな問題として捉えてやっている。プラス、加えて言うならばブラジルには香炉ありますよね？香炉の灰を入れて、それを 2,000 人分ストックしているというのがあるんですね。これは長男がなくなったり、長男がいないお家の仏壇、位牌ですね。そういったものの処理をどうするかということで、亡くなった方々の骨だとちょっと念がこもるということで、香炉の灰を小さなシリンダーに入れてそれをずっとストックが 2,000 本ぐらい、ヤードに置いてあるんですね。これってすごく本当は先進的な取り組みであると。例えば家系図なんか向こうではファミリーツリーと言いますが、ファミリーツリーを本当

にアーカイブ化して誰でも見れるようにしておくとか、本当にそういう取り組みというのはブラジルの県人会というのは先進的にやってるなというので僕も視察に行った時にびっくりしたんですけども、SDGs を考えた時に何を残すか、何をどう、ちむぐるを踏まえて繋いでいくかというところを考えていくと、県会の方々が既に考えてやってらっしゃることというのは参考になるんじゃないかなという気がしました。

最後になりますが、9ページ、10ページのところの多様な生物、生態系や世界自然遺産を含む、自然に囲まれた環境の保全、エコアイランドの実現、自然と調和したライフスタイルのところの一番の美しく豊かな自然保全され、生物多様性が維持されているところと、それから10ページの平和を希求する沖縄の心が継承され、国内外に広く発信されているところということは、二つが関連する取り組みで、僕が今やっていることで「くるちの杜100年プロジェクト」という、三線の竿の材料である琉球黒檀を読谷村座喜味のグスクの裏に植えているんですけども、約3,000本近く植えています。3,000本植えると4万丁の三線が取れるんですね。ところが、三線になるには、100年以上最低でも置かないと、黒木が材料としては使えないということで、現段階で三線に使われているクルチは200年ぐらい前のクルチ、300年以上前のクルチというのを材料に使っているんです。SDGs といえば本当にSDGs 的なんですけども、もう枯渇していて、目の前の今作られている三線の黒木の材料のほとんどは輸入物です。輸入元である東南アジア、インドネシア、海外の産地もすごく厳しくなっていて。簡単に言うともう三線のクルチはなくなるということですね。そういうことなんです。で、100年かかるんですね。植えたとして。僕はこの中に、例えば世界自然遺産や世界公園の保安全管理、適正な利用を促進するということがもちろんありますけど、首里城なんかの建て替えも考えた時に、やんばるにイヌマキの木を植えたという話もありますけど、昔やっていた琉球王朝時代にやっていたクルチの森とか、沖縄の伝統的な文化、工芸、芸能を支える資材的なものというのは5年10年で得られないのであれば、それは県とかがしっかりリードして、100年単位で木を植えたりそういう材料を確保するというのをやるべきではないかと。その第1歩が13年前に始めた「くるちの杜100年プロジェクト」という取り組みです。

長くなりましたが、SDGs の取り組みということはぜひアクションプランという形に今後進めていく中で、具体的な取り組みをされている事例、それからモデルとなっている、モデルとなりそうなそういう案件を本当に並べてみると、沖縄県でもこんなことされてるし、県外でも繋がりとあるところされているんだなということが分かれば、やっとなSDGs という考え方自体が沖縄の考え方に近づいてきたんだということがあれば、沖縄らしいSDGs の姿というのはおのずから浮彫になってくるんじゃないかなと個人的に考えている次第です。長くなりましたが以上です。

(進行)

平田委員ありがとうございました。高齢者の視点でありますとか、やはり色々な事例をご紹介

介いただきました。ブラジルの県人会の取り組みとか非常に大変参考になりました。お時間が残り少なくなっています。皆さん長時間ありがとうございました。一旦議事を事務局に戻しまして事務局からコメントいただきます。ありがとうございます。

(事務局)

限られた時間で意見が出せないこともありますので、後ほど、様式を送らせていただきます。言い足りないこと、後日にお気づきのことなどご意見いただければと思います。是非よろしくお願いします。最後に石垣市さんが参加されておりますので、一言いただいて会を終えたいと思います。

(オブザーバー石垣市)

インターネットの調子が悪くて参加が遅くなりまして申し訳ありませんでした。私は石垣市企画制作課の添石と申します。石垣市は令和2年、去年の7月にSDGsの未来都市として認定いただいて、そこから活動を推進していく方向で今動いて今1年目になるところではあるんですけど、石垣市としては地域の皆様へSDGsの普及であったりSDGsを通して地域住民の皆様を包括して連携して地域課題を解決していきたいというところで今活動を推進してるところであります。沖縄県の皆様であったり市町村、恩納村さんも含めて、横の連携も取りながら、一緒にSDGs推進していきたいなと思いますので、引き続きよろしく願いいたします。以上です。

(事務局)

ありがとうございます。市町村とは41市町村全体で連絡会議を持ってやりとりもしていませんけども、特に恩納村さんと石垣市さんは三者で連絡会議を持ちながら色々と共有しながらやっています。是非皆さんも一緒にいろんなトライができればと思っています。そろそろ時間も来ているので締めさせていただきますけど、SDGsは皆でやるにあたっては楽しいほうが広がるというか、物事が進むなと思っておりまして、お笑いの力って重要だと思っていますので、色々とお力いただければと思います。お笑いも含めて文化の力、こういった人間力みたいな所になってくると思います。国際貢献、技術貢献のところはウチナーンチュ大会の関連も含めて新膳委員、倉科委員の色々なノウハウ、情報など、個別にご相談させていただくことがあるかと思っていますので、ご協力のほどよろしく願いいたします。これをもちまして会議を終わらせていただきます。本日はありがとうございました。